

## 第2回図書館・美術館基本設計市民懇談会 議事録概要

### 1. 図書館・美術館整備基本設計（案）について

#### 【事務局より説明】

#### （1）周辺環境整備について（生涯学習課 永見課長）

- ・旧二中跡地を創作広場に
- ・美術館と図書館を渡り廊下で結ぶ
- ・エントランス広場のバリアフリー化
- ・市役所駐車場からのアプローチについて
- ・駐輪場の整備 など

#### （2）図書館整備について（図書館 政木館長）

- ・バリアフリー化の推進
- ・設備の改善を含む既存建物部分のリニューアル
- ・開架蔵書の増加、閲覧空間の拡充
- ・閉架書庫の設置 など

#### （3）美術館整備について（文化課 角次長）

- ・バリアフリー化の推進
- ・エレベーターの改修
- ・収蔵庫の拡張
- ・展示用パーテーションの改善 など

#### 【委員より質疑】

(細田座長)

まずは周辺環境整備について、ご意見をいただきたいと思っております。  
各委員の方からご意見をいただけますでしょうか

(渡邊委員)

図書館側の身障者用の駐車スペースは大体何台分を予定していらっしゃいますか？

(政木館長)

1台分を予定しております。

(渡邊委員)

それと先ほど周辺環境整備の説明のところ、専用駐車場の設置はいま1台分ということ、一般駐車場は現行通りとしたいということなのですけれども、この事は図書館協議会の方でも前から要望として出してございまして、お子様連れの方の通行が便利ないように、市の方が直されるとは言われたのですけれども、それでもやっぱり危ない。

何度も今まで話に出した事であって、車椅子は1台分だけ、更にお子さんを連れて来られる方達は一般の大駐車場の中で、子供さんが何度も事故にあいかけてたという実例がありますので、せめて小型の駐車場がありますよね、柵の所の手前、市役所駐車場からのアプローチって書いていますよね、地図でいくところが今、一般駐車場の所で網の柵になっていまして、小型の車が置けるようになっていると思うのですけれど、もし可能ならば、ここをせめて車椅子を降ろしたら、直ぐその柵を越えて行けるような工夫はできないものでしょうか？ 専用駐車場は出来ないとしても、図書館側に近いところをお子様、あるいはベビーカーをお持ちのお母様方とかお父様方も含めて、使えるようなスペースをなんとかとれないものでしょうか？

(永見課長)

車椅子利用の方の駐車場は1台分というお話をさせてもらいました。一方ですね、現在鳥取県の方が推奨していますハートフル駐車場の利用促進というような事がございます。現在図書館についてはスペースが無い為、ハートフル駐車場というのは施設周辺にはございませんので、市のハートフル駐車場を利用するか、あるいは美術館のハートフル駐車場を利用するという風にしております。1台が専用となる車椅子の利用場所ですけれども、ハートフル駐車場について何らかの形で、確保しなければいけないと考えております。

(渡邊委員)

そういう事も含めて対応していただけると嬉しいです。

(永見課長)

一方、市の駐車場の中に、図書館の利用者の方に限ったスペースをつくるという事につきましては、市役所を利用される方、あるいは美術館の方、色々な方がいらっしゃいますので、専用の駐車場を作るのがいいのか悪いのかは、もう少し協議したく思います。

(黒田委員)

障害者の方々ばかりではなく、先ほどもハートフルの方で話がありましたけれど、駐車場あたりも、妊婦さん、お年寄りの方、障害者の方といいますと、すごく範囲が広いのです。1台、2台では間に合わないのです。ただ車椅子の方のために1台でも作っていただけるとありがたいのです。近くまではいけるんですけど、なかなか歩いて市の駐車場から、図書館・美術館まで行くというのが大変です。だから、車椅子に頼ることになりますので、よろしくをお願いします。

(渡邊委員)

車椅子の方のところでも1台しかないってことで、今もなかなか大変なのですが、例えば

送り迎えをするという事で、一旦入らせてもらって降ろしてまた、自分は駐車場に入れているのですが、そうやって図書館なり美術館に行くという事は、今後も可能でしょうか？

(政木館長)

図面の青い点線のところには入れます。

(長田委員)

この話は随分歴史が長くて、平成20年以前からいろんな意見が出ておったけれども、こうだんだんまとまってきたという事につきまして、大変喜んでおります。

やはり図書館と美術館は一体として計画されるべきだ、その中で駐車場の話も出ましようし、共用で出来る場所っていうのも必要だろうし、両館を繋ぐ廊下(案)というのもありましようし、それも話題に出ていましたけれど、今日の説明を見ますと、入っていますから、それも大変いいことかなと思っております。心配なのは、表の側は良くなったけれども、その中で動かれる学芸員の方とか、大事な美術品とか、あるいは図書館では大事な書籍とか、どうかなってはいけないし、その辺も考えてあるとは思っております。

美術館なんかでも、この広さでこの案でいいかどうかは、学芸員の方も来ておられるようだから、聞いてみたいなと思っております。それから収蔵に関してですけれども、収蔵といますのは、一見非常に小さな茶碗でも、結構な値段がするものがあります。美術館も努めて地元の方の作品を集めてますけれども、ただ広さがあるだけではいけない、収蔵に適したようにしなければならぬ。狭いからそこに棚を作ってそこに置けば良いというものじゃなくて、品によって、収蔵の方法も違うでしょうから。その辺も学芸員の方も一緒になって考えて欲しい、スペースとしてはそのことを考えた上で、これでいいのかなという気はしております。皆さんがお茶を飲む場所がほしいというのもたくさんあったように思いますけれど、美術館でじっと一日中過ごしている人っていうのはそう無いと思います。図書館は、朝から晩まで本を読む人があるかもしれないというのはありますが、美術館としては、出た所をそのように作る、これはこれで良いという気がしております。

繋ぎの廊下というのを外から見たとときの美観については、うまいこと考えてあるなというデザインを是非設計事務所にはお願いしたいと思います。自動車が通らなくてはいけない、これは仕方ありませんので、大雪が降ったときの事も考えておかねばなりませんし、例の不評の「噴水」でございますけれども、あれも非常に良く考えて全体構造の中で、いい格好で作ってあるなと思っていたところが、汚れてきたから要らないようになったという事例もありますので。それも踏まえて、廊下の美観とか使い勝手を考えてもらって、よく検討してもらおうということ。

あと駐車場は、あくまで市役所の駐車場であって、美術館・図書館側のものではありませんので、外からの入り方とか、車の向きとかみんな市役所寄りに出来ておまして、美術館・図書館側を向いておりません。その向きををどうしろという訳ではなく、利用しやす

いようにいい印象を。例えば、誘導路などを作るという事で片付くのではないかと。それと憩いの道ですが、第一回目の会議があった後に、私は行ってみて、「ああ、こんなのがあったんだな」と思って、改めていい具合に考えてあるなあと思ったのですけれども。あれはできてからの手入れが悪くて、結局大分お金がかかるなあと思っておりますけれどあのような広場、あるいは道というようなものも、美術館の道であるし、例えば東京の上野公園の国立美術館に行っても、入り口が「顔」でありますから。手入れの費用も含めて予算に入れてもらって、この先考えてもらったらいいかないかなと思います。昨日も「昭和の家族展」を見に行きまして、天井も見たら汚れておりますし、棚でもあった方がいいかなとか。色々あるので、この際よく検討してもらって、学芸員さんも働きやすくないと。大事な美術品を扱うのに困ります。収納も含め細かいところの設計も宜しく願います。

(細田座長)

学芸員さん等の動きについては、後で皆さんの意見をよく聞いていただきたいと思います。

(渡邊委員)

今いわれた図書館と美術館が対面式の玄関になる、このところをもう一度確認したいのですけれど。あの4メートルのところに屋根が出来るという事ですよ。だから雨が降っても天気の悪い時でも、屋根伝いにいけるという解釈で、移動図書館車も通れるような工夫をする屋根付きという箇所ですね？

(永見課長)

はい、そうです。

(長田委員)

廊下に壁はありますか？

(永見課長)

壁の無い廊下というイメージです。

(田中職務代理)

まず一番に考えましたのは、新設された障害者用駐車場の位置なのですけれども、ここにもってくる事によって、この駐車場を利用する車と歩行者動線が重なってしまいます。この場所に新しく設けると、距離が近くなって利用するには良いのですけれども、そうではなく、市役所駐車場の中の身障者用スペース。ここを増やして、少し距離はありますけれど。この部分については、車が入れないような工夫があってもよいのではないかなと思っております。やはりこのエントランス広場は、このエリアの中でも少ないオープンスペースです。ここで本を読んだりだとか、くつろいだりするスペースで良いと思います。

ここに、身障者用駐車場を使う方が車で入ってくるということが本当にいいのかどうか。先ほど渡邊さんもおっしゃいましたが、身体が不自由な方を連れて来られる方のために、青点線の自動車動線のようなものが示してありますけれど、例えばこの自動車動線の一部を車寄せゾーンとして、車を停めて降りてもらふスペースを固定してしまえば、障害者用スペースを増やす事によって対応できるのではないかなという風に思います。

それともう一点は、デッキなのですから、これも、折角のエントランス広場、唯一のスペースが閉鎖的になってしまうのじゃないかと思いました。実際、図書館→美術館を利用される、あるいは美術館→図書館を利用されるという方は何人くらいおられるのだろうか？。その人のために、この折角の開かれたエントランス広場の真ん中に、4mのものがぼっと出てくるという事が、見た目と空間の広がりイメージを考えた時にどうなのかなと思います。私が思うのは、こういったデッキとかではなく、広い空間の中に右に図書館、左に美術館というほうが、開放感・建物と空間の広がりっていうか、そのほうが図書館・美術館には相応しいと思います。

それともう一点は、今図書館の右下に円形で芝生のような所がありますが、例えばこういったところでも、借りた本を読めれば。特に子どもたちが、春休みとか夏休みとか、借りた本をここで読めるような工夫があってもいいなと思います。例えば数箇所、外に向けての出入口を設けるですとか、セキュリティの問題があるとは思いますが、もう少しオープンスペースを有効活用するような計画になってもいいのではないかなあという風に思いました。

(渡邊委員)

私もそう思います。芝生のところは賛成で、お天気のいい日は是非出られるようにしていただけるといいと思います。利用者側から申し上げますと、さっきの4mの屋根があつて図書館と美術館を行き来できるということについて、私は図書館に行ったら美術館にも足を伸ばしています。それに来館された方々にも、「今日は〇〇さんの展示会があるし、行かれたらどうですか」と言ったら、美術館に行かれるので。雨の時とかを考えると大変便利だと思います。特にベビーカーを押して行かれる方達は。車椅子で利用する方達にとっても、ありがたい屋根だと思います。

(中川委員)

私もそのイメージがすごく湧きにくかったのですが、この屋根をつける通路の感覚が、やはり真ん中にドンとあることが、私の感覚では、ちょっと無いですよね。図書館と美術館の連携というアイデアとしてはいいですし、経費等の問題はあるでしょうけど、オープンスペースを真ん中に置くというのは、ちょっと分かりにくいです。

あと、駐車場が少ないのでは？。仕方がないにしても、真ん中にある駐輪場っていうのは、この位置に必要なのかという気がします。駐輪場を使う人はどちらかという、元気な人だと思います。ここに持ってくる事は、ちょっと場所が悪いのではないかという気がする

のですが。通路は大事ですが、真ん中を遮断するというのは？。それと三角の広場を、ここに置く意図というのはどういう意味なのでしょう？

(建築住宅課 西村主任)

現段階で図書館裏に現状の駐輪場がございまして、なかなか利用率が少ないという事がございまして。今は取り敢えず、前の方にもってくる案としております。

(田中職務代理)

利用率が少ないというのは不法駐輪が多いという事ですか？

駐輪場以外の場所に自転車を止められてるっていう事ですか？

(建築住宅課 西村主任)

そうです。市役所横の駐輪場を結構使われていたり、正面側に自転車を置いたりする行動パターンが多くてです。図書館の横とか後ろに置いて、また正面に戻ってこられるというのが少ないかなという事で、正面に置く案としております。

(中川委員)

私の友人達はみんな市役所のところに全部停めていきます。そんな不便を感じておられないと思います。自転車に乗れる人は元気な人ですから、少々歩いても問題ないです。それよりも車椅子駐車場の利便性を考えたら、1台程度でいいのか？。デザインを優先しているのじゃないかという気がしているのですが、駐車場については考えていただきたいなと思います。

(永見課長)

いずれかの段階で、配置図だけではなくて、パースだとか断面図、立面図だとかそういうものが出てくれば、もう少し意見も出しやすいのかなとは思いますが。

(渡邊委員)

事前にもう少し早く資料をいただくと、周辺の方の意見も聞けますし。限られた時間で、出来るだけ早く図面はいただきかけたです。先ほどの繰り返しになるのですが、駐輪場は健常者の方が利用されるという事であれば、ここに駐輪場は必要ないなと思います。ただ玄関と玄関をつなぐエントランスに関しては、やっぱり色々な面を考えても、身体の不自由な方達の事を考えると、一番便利な所にあっているのではと思います。

(長田委員)

このように渡り廊下が、ここにあるとすると、利便性を考えんといけんという気がします。ただ短い所をつなげばいいっていうものじゃなくて、広場を活かす意味からいえば、

もう少し旧二中跡に、長くても廻すとか工夫した方がいいかなという気がします。

(渡邊委員)

例えば建築上広場を活かすという意味合いは、開放感という風な事なのですか？  
実際には、どういう形でこの広場が利用されているか。ただあるだけですか？

(細田座長)

今はただあるだけっていう形態ですよ。

見にいかせてもらっても、そんなにそこで何かをとという事はないですね。  
やっぱりベンチだとか木陰だとか、そういうものをうまく配置していったりするの  
は必要かと。但し、その広々としたエントランス広場っていうのもやはりこう  
図書館・美術館の入り口の判り易さっていう面ではある程度広い空間があ  
った方が良いと思います。

(渡邊委員)

それも、健常者の立場からの視点ですよ。

(細田座長)

身障者の方の立場でしたら、駐車場が近い方が良いのは当然だと思います。  
現状の図書館・美術館よりは、今の案ですと若干近くなりましたが。  
今の渡り廊下の位置ははっきりいったら、スロープとは何等関係の無い所について  
いますから、やはり入り口をつなぐことが大事なのか、それともスロープとか含  
めて、スロープの上に少なくとも庇がかかっている事が大事なのか、何が  
大事で何が大事でないのかっていうのを、きちんと整理する必要があると思  
いました。  
先ほど田中委員が言われたように、今は図書館・美術館の裏方ですけど、こ  
ういうものが欲しい、こういったスペースが欲しい、スペースがより欲しいか  
らこっち側に出しておきましたっていうような形ですけど、やはりある程度  
早い段階で、このあたりの通し図的なものでチェックしないと。今は図書  
館・美術館に距離があるので、お互いレンガ調の外壁でなんとなく調和して  
いるような雰囲気ですけど、今度は、それぞれが寄ってきますよね。その  
ときに開口部の取り方だとか、どこがレンガになるのかとか、どこが出っ張  
ったり、引っ込んだりするとかで、随分ここの雰囲気が変わるような気が  
します。  
早めに開口部の位置だとか、出てきた部分を、景観的に評価するような、そ  
ういう取り組みをしないと、機能的には満足されていても、かなり場当たり  
的にスペースを拡げてきたという雰囲気が分かるようだと、まずいかなと思  
います。

(田中職務代理)

もう一点、意見というのが図書館と美術館の連携という質問に対しての、  
回答として渡り

廊下を設置しますという風になっていて。要はデッキをつけたから図書館と美術館が連携しましたよという風にしか見えなくて、多分、この意見を言われた方は、ハード的な連携では無く、ソフト的な図書館と美術館と歴史館の連携を言われておったのではないかと思います。ですので、市民意見の文化空間としての図書館・美術館・歴史館の連携に対して、整備案として渡り廊下を設置しましたので、この意見はクリアにしましたという表現はおかしいのではないかなと。

それと配置図で、中央下の三角の芝生の自転車駐輪場となっている。ここに障害者用の駐車スペースとして3台分設けて、更に今検討されている身障者用駐車場のスロープをこちら側に持ってくれば、距離もそんなに遠くならずすむと思います。この場所は本当にいい場所なので、シンボリックなものにするか、あるいは利便性を考えて、身障者用駐車場をここに集積して、図面を見る限り多分3台か4台分取れると思うので、そういったゾーンをここに設ける、その周りに車止めを設置。ここまでは車で入ってきてもらって、そこで降りてもらおうというスペースを明確にしておけば、安心安全ではないかと思います。

(細田座長)

各委員からお話があって、特に身障者用の駐車場の位置ですね。奥に身障者用駐車場を設置していますので、歩行者や図書館・美術館の渡り部分と車の動線がかなり交錯する。

三角形の部分を目障者用駐車場にしてはどうかという話がありました。後は、みなさん気にされているのは、渡りの屋根のかかる部分の場所ですね。真ん中がいいのか、壁側に寄せた方がいいのか、という話があります。そういった点については、事務局の方で今後検討していただきたいと思っております。

まだ図書館・美術館の方がありますので、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

つづいて、図書館整備について、ご意見をいただきたいと思っております。

(中川委員)

対面朗読室について、この前提言させて戴いたのですけれども、回答として、研修室などで対応したいと書いてあるのですけれども、研修室は3つあるのですけれども、どの研修室で対応するのでしょうか？。

もう1つは、対面朗読室は必要ないといったのですけれども、それは、それに代わり得る視覚障害者用のPCトーカーというものが随分普及しておりまして、PCを通して、全部本を読んでいっちゃる。我々が音訳ボランティアとして、録音図書として作ったものを全部、PCから聞くことが出来るのです。だからPCトーカーが気軽に聞けるような部屋が欲しいなと実はそのときに思ったのですけれども。この前のときは対面朗読室の話がだめだったから、対面朗読室は必要ないと思っておりますよっていうことで。ただ、PCにまだ慣れていられない方がたくさんいらっしゃいますので。こんなにも普及しているのだよ、という意味で、そういうソフトを入れて欲しいです。

そうなると、研修室を使っても、その時だけ使うというのでは、ちょっと対応が難し



いじゃないかと思えますし。音を聴かないといけないから、ある程度静かなところが欲しいので、専用の部屋があればいいかなと。

(細田座長)

図書館の方では、検討されていますか？

(政木館長)

先ず、1つ目の質問。対面朗読室は殆ど利用がないのですが、仮にそういう方から申し出があった場合には、1階の研修室ですね。実際8人くらい入れるような部屋だと思いますが、ここなら十分対応が出来るのかなと。PCを置いた部屋というのは、考えておりませんが、そういう場合もこの研修室が使えるのかなと思います。ただ、365日の開館日に専用でとっておくという事はいかがなものかなと思っております。

(中川委員)

大体4万円くらいのソフトなのですが、普通のPCだと余りにも容量が大きくて、PCが壊れてしまったのです。ただ、視覚障がい者の方にとっては、本当に使い勝手がいいというか、それこそショッピングも、みんなそれでできてますし、インターネットは使ってますし、どんどん先端をいっていますので、そういうものを置いてどんどん普及したい。中途失明者が非常に多いので、もうパソコンを使える人達だったら、もう何でもそれで対応出来ますので、そういうものを図書館に置いて、あそこにいったらもしかしたら、その指導もして下さるし・・・という事になれば、それはもういわゆる対面朗読室に代わるものだ。是非1台、2台入れてほしい。そして静かな所でないと、聞いて全部音声でやるという事がありますので、それをして欲しいなど。

(政木館長)

1階の研修室は非常に静かな場所で、防音の工事も考えておりますので汎用的に利用出来たらいいなと考えております。

(細田座長)

それではPCトーカーは、検討という事でよろしいでしょうか？

その他に何かありますでしょうか？

(渡邊委員)

2階の2つの研修室、これは大体何名くらい入れるのでしょうか？

(政木館長)

普通の教室の半分くらいです。

(渡邊委員)

特設文庫室で漢文を読む会とか開かれて大体常時20名くらい。私たち図書館友の会などが20名くらい集まったら、もう満室で使えないんです。出来たら本当は今後30名くらい入れるような部屋が有ればいいなと思っていたのですが、それぐらいいは入れる？

(政木館長)

机の置き方にもよるのですが、ゆったりと置いた場合、大体長机が6つ程度入り、現在の特設文庫室より、かなり広いです。

(渡邊委員)

それなら大丈夫です。それともう1つ、1階の児童開架室のところのスペースなのですが、これはどういう仕切りになるのでしょうか？

(政木館長)

これはまだ基本設計の段階ですので、これからです。

(渡邊委員)

多目的研修室を、それなりに直して間仕切りをできるような部屋にするという事ですね。

(政木館長)

はい。

(細田座長)

今、現状の階段が有るスペースが、吹き抜けが残って階段が無いのですが、2階の参考資料・郷土資料スペースっていうのが、結構私が見に行ったときはかなりご高齢の方を中心に使われていました。新しく着く階段からかなり遠くなってしまうので、出来たら今の場所にでも、螺旋階段等新設されて、参考資料・郷土資料スペースへ向けてアクセスを良くした方が良くと思います。2階に移動する際に複数の動線を確保しておいた方が、色々な時に便利ですし、もしも避難とかっていう時にも、対応できるかもしれませんし、利便性は高まるんじゃないか。それと、この2階の多目的スペース・展示ギャラリーが研修室で分断されているというか、2つに分けられているのですが、研修室を寄せる事で、何か多目的スペースをL字型にでもして、もう少し大きくとっておかないと、多目的スペースは誰も利用しないスペースになりがちなので、研修とかいろんな事で来た人が気軽に展示品をみたりとか、ついでの利用が生まれるような。そういう事を今後考えて

いかれた方がいい。それと学習スペースについては、賛否両論がありますけれど、高専生にも簡単なアンケートをとりましたが、その年代というのは図書館に本を借りにくるのではなくて、勉強しにきたい、中学校の時も勉強しにきていたという話があって、それを完全に悪いという風にするのではなく、彼らも後々10年20年すればメインユーザーになってくれる予備軍ですから。大切に扱ってあげたいなというのがあります。今回の案でも、多目的研修室を勉強するスペースとして使えるという事ですか？

(政木館長)

そうですね。結局、米子の中学生・高校生も既得権というみたいに感じているでしょうし、なかなか各市ではこういう所まで提供していないという例が多いみたいですが、あいている場合は、これまで通り提供したいと思います。

(渡邊委員)

多目的スペースの先ほどの意見に賛成なのですが、お願いしたい事は、私たちがまだこういう所が未知の世界であって。本当にここがどれだけ機能するだろうかという事をすごく心配しております。出来ましたら、設計を担当される方・建築を担当される方、是非設計をされる時にこういう所が良かった、こういう所はだめだったという事を本当に色々とチェックしていただきたいなと思って。アイデアをどんどんお願いしたいと思いません。

(長田委員)

ここに図書館と美術館がある。そこを廊下でつなぐ。そこだけなのだけど米子の美術館の特徴っていうのが、松江とか鳥取とかと違って、ただいい絵をちゃんと広い場所で静かに見せてあげるっていう事以外に。例えば、小学生集めて、「昭和の家族展」やっているなら、こういう事でこういうお話をきかせてあげたらいいだろなっていう事など、まあ色々ありますね。共同利用という面において、この部屋が増えたことによって、そこで本当に使えるのだろうか、それから図書館は図書館だけで一杯なのか、せめてこういう部屋があるなら、美術館は部屋がとれなかったの、図書館の部屋を借りるとか、あるいは児童展なんかだったら、そんなに美術館の方のいい部屋を使わないで、図書館の広い部屋で出来る事もあると思うのですが、その辺の可能性と必要性っていう事について、こっちから意見を聞いてみたいと思うのですが。そうすれば、多目的研修室で例えば美術館で展覧会をやっているのであれば、その展覧会の人に関する色々な話をこちらの図書館を借りて説明するとか、共同利用すればつなぐ意味ができるかなあとと思ひまして。

(田中職務代理)

2階のスペースで研修室が2つ並んでいますが、それを例えばこのままの広さで、右の多目的スペース部分に移動させてエレベーターホールの所の右側に多目的スペースを持って

きて、エレベーターを丸く囲って、多目的スペースに並べてしまえば、屋上ギャラリーと多目的スペース等の部分が広い空間になって、今よりも大きな多目的スペースになることが可能だと思います。図書館と美術館の連携ってというのは前にデッキをつけて建物をつなぐっていうだけじゃなくて、例えば同じ作家なり同じテーマの有料展示を美術館でやって、無料展示を図書館でやるという事等、そうした事が本当の図書館と美術館機能の連携につながってくると思います。そういう事で研修室の位置はもう少し考える必要があると思います。あと、階段の位置というのがちょっと微妙で、既存の吹き抜けの所には階段があるので、それをいかした階段、この図面上の真ん中にも階段がありますけれども、こういった階段ではなくて、上の階段と新設された階段の間、吹き抜け部分に何かの動線が必ず必要になってくるのではないかなと。

(細田座長)

共同利用とか連携とかいう話が出ました。何か検討されている内容がありますか？

(政本館長)

今後の運用という事になるのですが、勿論、美術館と一緒にですね。連携をとるという話は至極当然の事でしょうし、仮に図書館が休館の時でも、こちらの部分は使えるような仕組みになっておりますので、一体的な利用が可能であるという風に考えております。

(中川委員)

やっぱり2階の研修室は右側に移動するのがいいのではないかなという気がいたしておりますし、もう1つ研修室は出来ればもう少し広く、例えば本当に今は手狭すぎるのですよね。私たちも水曜図書会で20人集まるととてもじゃないけど、もう小さくなっているくらいで、ちょっと見学者が来られるともう入れない状態なのです。広すぎる事はないので、30㎡から40㎡くらいまで広げて、ギャラリーのスペースを右側にずらす案に賛成したいなと思っております。

(細田座長)

この研修室2つを可動間仕切りでつなげるという考えもあると思います。

(渡邊委員)

小ホールではないのですが、30人～40人くらいが集まって入れるくらいの部屋と小さい所で10人くらいがミーティングをする部屋がある方が機能すると思うんです。同じサイズの部屋が2つあるよりは。横移動は賛成です。空間的スペースが出来た方がいいと思います。可動間仕切りだと毎回使う時に手間ですから。

(細田座長)

小、中の部屋があるといいかもしれないという考えですね。

(政木館長)

そうしますと、その階段と研修室の件については、検討させていただきます。

(細田座長)

新しく作られる部分の特に2階部分について、多くのご意見があったかと思うのですが、やはり未知のスペースができるわけですから、やはりそこについて色々な使い方を想定しておかないと、実は使えなかったという話が出てくると思いますので。

(渡邊委員)

現在蔵書が25万冊ですが、規模が増えたとして、余裕は十分あるのでしょうか？  
今後、何十年も蔵書は増え続けていく事になると思うのですが。

(政木館長)

限度はありますが、書庫の部分としては1.5倍になります。例えば郷土資料の所とかも詰め込んでいるのですが、そういうものを書庫に移動したり、郷土資料なんかも手に取って見て頂けるような、ゆったりとした空間を展開出来るのではないかと考えております。

(渡邊委員)

米子市立図書館の蔵書数は、県内でも少ないほうと思うんですね。

(政木館長)

そうです。やはり蔵書数の事を言えば、開架の事も考えないといけません。  
もちろん今よりは増えると思います。

(渡邊委員)

若干なりとも余裕は残るのでしょうか？。この広さで。

(政木館長)

本は毎年仕入れ、廃棄するのですが、その兼ね合いで余裕という事までは言いづらいかも。

(中川委員)

今回、何十年かの念願の増改築がされて、本当に書庫が満杯になり。時代の流れと共に、書庫の狭さがだんだんプレッシャーになってくるのは間違いないだろうとは思っています。  
書庫の広さっていうのは、どこの図書館も一番気にしている所だと思うので。

(政木館長)

1階に書庫を設けることができた分が、今までと全然違うところだと思います。

(長田委員)

今の話で図書館としては、書籍の電子図書化が進む状況の中で、いかに本がいいものであるか、絶対残しておかなければいけないところも多いでしょうし。美術館の方も松江や鳥取なんかでも大きな展覧会が来るのだけれども、でも米子はこんなにいい所があるのだっていうのをどうして出すかっていうと、難しいとは思いますが。なんか特色というものはないのかなあと、思うのです。そりゃあ地元作家なんかの貯蔵の分は比較的ありますから、そういうものをみんな図書館に見に来る人なんかにも知って欲しいし、その関連の図書もたくさん出てますから。展覧会をやっていれば、その書籍ばかり集めて語る月間を、共同でやればいいと思うのです。そこがうまく連携出来るっていう事を、まあ「ちっちゃいながらも楽しい我が家」にしたい、しかも価値あるものにしたっていう所なので。

(細田座長)

図書館・美術館の改修は折角の機会ですから、今以上に図書館と美術館が連携するように、連絡会みたいなものですか。今もされているのでしょうか。役所の中でも、もっとこうソフト的に強めていく仕組みを、少し考えて戴くことが建設的かなと思いましたね。長田委員の方からも美術館の話が出てきていますけれども、それでは美術館について、各委員のご意見をお聞きしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか？

(中川委員)

オープンスペースのところが分かりにくかったので。オープンスペースというのは、美術館に関係無くても入れるのか、どういった形になるのか、もう少し詳しく教えていただきたいのですが。

(角次長)

このオープンスペースは、くつろげるスペースという事で、休憩が出来るという事を考えております。他に、ミュージアムショップというようなお話もありましたので、例えば、利用者団体が関連の物品を販売するというような事でも、出来るというようなことを思っております。美術館の中に入らなければここに入れたいのではなく、外から入れるスペースにしたいという風に考えております。図書館に1日おられたような方が、ここでお茶を飲むという事が可能でもあります、弁当を食べるといったような事も場合によってはいいんじゃないかなと考えております。そういうような自由な発想で使えるようなものをここでは求めていくというような。喫茶室なんていう事もあったのですけれども、本格的な話に

なりますと、従業員はどうするのだとか、経営をどうするのかというような話が出ます。そこまでは、考えてはいないという内容です。

(中川委員)

ちょっとお茶を飲むところが欲しいなという思いはあります。

(細田座長)

業者さんが入られると、逆に敷居が高くなって難しいですね。

(角次長)

いま想定をしているのは、植田正治美術館なんかにあるようなセルフサービスで、コーヒーやお茶等がいただけるというような格好にはしたいと思っております。

(渡邊委員)

たいていの図書館とか美術館には入っていますね、喫茶コーナーは全国的に見て図書館とか美術館には入っていますね。身近な例で岡山県立図書館は、岡山米で作ったパン、地元のもので作ったものなど地産地消で、皆さんが岡山の物をおいしく食べている。それも本当に玄関に近い場所で。

(中川委員)

公募で、手を挙げる人も出てくるかもしれないですよ。

(細田座長)

進め方として、ある団体が営業をしたいっていう事を妨げないような設備に一応はしておくのは大事かもしれないですね。

(中川委員)

身障者の作業所とかでも出たいっていうかもしれないですしね。時間的にもそんなに夜間はないわけですからね、意外とそういうのに応募したいっていう人がいらっしゃるじゃないかと思ったのですけれど。

(渡邊委員)

今、一ヶ月毎にローテーションで色々出店するっていうのもありますからね。

(長田委員)

四日市町から公民館の方向ですかね。カフェとかが出ているのは。

結局はあんまりうまく続いていないみたいですからね。誘導道路みたいなものがあつたらいいかもしれないですね。

(細田座長)

前回、田中さんから商店街とのつながりという話がありましたけど、少しアクセスが悪いですね。

(田中職務代理)

今の話の中で、美術館の中のカフェっていうのは、もっと重要視して考えた方がいいじゃないかなと思います。図書館・美術館は結構広い面積で、何人もの人が集まるのですけれども、カフェスペースっていうのがまったくなくて、もっとカフェの機能を重要視して、オープンスペースを考える必要があると思います。カフェでお茶を飲むっていいものは、本を読みながらとか美術品を見た後とか、一緒に行った人と話しをするだとか、四日市に行けばそういう場所はあるのですけれども。そういったスペース、カウンターで、外が見えて、木が見えて、そこでコーヒーを飲みながら、「さっきの展示品は、どうだった？」とか語るとか、そういう場所は美術館の機能として、すごく必要だと思います。

だからこそ、オープンスペースにして、セルフカフェでコーヒーを飲ますっていうのでは無く、その業者さんとか誰かが入って、常時カフェを出来る事が必要だと思います。もしそのカフェスペースを大きくとれるのであれば、展示に関連する飲食物、関連した飲み物を出すとか、有効活用がもっともっとできる可能性があるのが、このオープンスペースであり、美術館のカフェだと思うのです。だから、ただ単に何にでも解釈出来る事にするのではなく、ちゃんとカフェならカフェという風に位置づけ、もう少し突っ込んだ計画をしていく必要があるのではないかなと。それと小さくても、常設のウェルカムショップっていうものがあつたらいいのではないかと思います。「米子市美術館に来た」という記念にもなるし、その展示に対するお土産だとか記念品というか、そういうものが常設であつたらいいのではないかと。

あと、1階の平面図で真ん中の上の方に、授乳室があるのですけれども、ここへの動線っていうのがおかしいなと思っています。要は控え室を通らないと授乳室には行けない。授乳室はもう少し前にあつた方が使いやすいのかなと思います。

あと、エレベーターの扱いを、身体障害者の方に対応したものに代えますという発想だったのですが、このエレベーターっていうのは、何も車椅子の方や身体障害者の方だけではなくて、高齢者の方にもすごく便利なものなので、身体障害者のためにエレベーターをチェンジしますという発想ではなく、高齢者も安心して美術館を使えますよという発想で、エレベーターを有効利用していただきたいし、そのような発想を持っていなければいけないと思います。確かに階段を上りながらホールの展示を見るというのは、すごく変わった感覚で楽しいですけど、高齢者はみんなエレベーターを利用するほうが有効利用できると



思うので、方針内容どうのではなくて、「高齢者の方にも使えるやさしいエレベーター」ですよという発想で、計画をしてもらいたい。

(長田委員)

エレベーターは、伸縮すると何か耐震基準の関係で、いけなかったと思いますが。これを使うならば今言われたように広く使えるようにせんと意味が無いので。ガタッガタッと音がする今の状況からは、ぜひとも抜けて欲しいし、おしゃれにして欲しいし。やっぱり我々も階段の上り下りより、エレベーターを使いたがるから。あの場所でいい考えだとは思いますが、新たなのがダメなら、これを多少色々考えてもらった方がいいかなと。

(細田座長)

このエレベーターまでにつながる部分が、ホールとかとの仕上げと殆ど変わらない質感で、ウェルカムな感じを出すってということですかね。

(長田委員)

そうですね。エレベーターは今安く出来るし、でも公共的な場所だから、例えば事故が起きてはいけませんし、そんなことも考えておくってことですね。

(細田座長)

この授乳室の位置は、いくら壁にサインが書いてあってもこの位置では難しいですね。寸法っていうのも、本当に9㎡必要かという事も出てくるかもしれないですね。例えば授乳室の方が前にあって、通路があって、奥に控え室という事も考えられるかも。先ほど、カフェという話があって、今のオープンスペースの前にデッキテラスが設けてあって平面図だけで見るとオープンスペースですがデッキテラスとも一体として考えて。市役所に来たついでに、カフェに寄りたいたいと思わせるぐらいのそういう雰囲気、植栽だとか質感だとか、そういったような事かなと思います。市役所の方が、来客があった時に、役所の中ではちょっとあれですからとかいって、「いい所がありますよ」くらいな感じで、一緒に連れて行けるぐらいの場所になったらいいかと。市役所の方も市民の方もそういうつもりで思っ作ると、まあ、なんとなくオープンスペースと思っ作るとでは、随分と違ってくるかなあと思います。

(長田委員)

そういう意味では、市役所の地下を使わせてもらえんかなあという話も前あって、でも、ちょっとあそこも行きづらいなあというのもありましたし、なのでそれを置いてもいいのかどうなのかっていうのも役所の事だからわからんし。

図書館のほうは、ずっとあれ前の方にてたのでしょ？広場の方に。  
そうするとかなり廊下がそこにくると、もう閉塞感が強いじゃないですか？

(細田座長)

はい、そうですね。  
まあ色々なものがこの広場に顔を出しているというような形ですね。

(長田委員)

必ずそれをどっかつなぐような具合で、こう入り口があってもいいのかなあと、雨もしのげると思うのだけれども。費用の関係か場所の関係で無理なのですかねえ。  
今の一番端とこっちの一番端とをなんかつなぐ方法がないかなあと思ったのですが。

(細田座長)

つなぎ方をもう少し検討していただきたいですね。  
本当はもう建物的につないでもいいくらいなのですが。

(長田委員)

そのままいっそのこと真ん中に、カフェテラスを作って、そのこっちとこっちとの端をつなぐとかね。今ここまで設計が出来ていればなかなか難しいかな。

(渡邊委員)

あの、建物的につなぐことは不可能なのですか？

(細田座長)

今、図書館の裏方が美術館に近づいていますよね、そうすると利用者動線が、裏方をまわってつなぐというのが難しいかなと思います。

創作広場がまったく使えなくなるということになりますので。色々やりとりをする中で設計をされているのだと思いますけれど。創作広場を活かすためには、ある程度、図書館と美術館を空けざるを得ないわけで。ただ今でも、ここをどうやって使うのかなとクエスチョンマークですけど。

周辺環境と図書館と美術館に関して、ご意見伺いましたが、皆さんの方から、今までを振り返ってみて、周辺環境と図書館と美術館に関して、これだけは言っておきたいという事がなにかありませんでしょうか？

(渡邊委員)

基本的に、緑とかを増やしていращやるのですけれど、庭の管理っていうのはとても大変じゃないですか。しょっちゅう手入れしないといけないですよ。これも是非考慮に入

れて、管理も簡単なものにした方が。維持するのも大変ですし、人もかかってしまうし。そういった事にかかるのだったら、本とかそういうものにかけてほしいと思います。それから、前回もお願いしたのですけれど、市民の意見箱。図書館に来館される方に、こういうところを直して欲しいなという事など積極的に貸し出しをする所で聞くとか、市役所にもそういう物を設置するとか、公民館とか、そういう事はどうなっているのでしょうか？。市民の意見を広く聞くという事に関してですが。

## 2. 図書館・美術館整備基本設計（案）に係るパブリックコメント及び

### 市民説明会（タウンミーティング）について

#### 【永見課長より説明】

- ・パブリックコメントの実施案について
- ・市民説明会（タウンミーティング）の実施案について

#### 【委員より質疑など】

(田中職務代理)

パブリックコメントに出される資料について、例えば平面計画について今日色々案が出たのですけれども、計画の修正が間に合わないのであれば、最低でも先ほどいった立面図だとか、簡単なパースだとか、あった方が色々な意見を取り入れやすいと思います。多分平面図を見ただけでは難しいと思います。

(角次長)

パブリックコメントには時間的に間に合わないと思います。

(田中職務代理)

立面図くらいなら直ぐ出来るのではないですか？。現行のものに対応した立面図であれば、直ぐ出来たりすると思うのですが。

(中川委員)

修正したものは出さないのですか？意味ないじゃないですか。意見を募るのであれば、直して、それに対して意見を募るのがパブリックコメントでなければいけないと。

(角次長)

パースは難しいですが平面図の修正は十分可能ですし、立面図も概略的なものでしたら対応は可能です。設計事務所の方にがんばってもらおうと思います。

(細田座長)

本当は模擬模型とかもあればいいのですが。出来る限りの資料を出してもらって、平面図の修正なんかは、やった方が良くという意見が出た所には修正をかけてもらう事をお願い

したいと。出来ない所は、委員からはこういう意見がありましたっていうのを手書きでも、図面に書き加えてもらっておいて、それをパブリックコメントに出すと。委員の方この図面に対してこういう意見を既に言われているのだなっていう風に思います。各委員にはそれぞれのお知り合いの方とかたくさんの方に意見を出して戴くように呼びかけて戴けたらと思います。私も高専の学生には、呼びかけをしたいと思います。

(中川委員)

渡り廊下の件なのですけれど、私はすばらしい事と思うのですけれども、材質についてはどういう風に考えてらっしゃるのでしょうか？。心配なのは変なものがダーンと来てしまうのではないかと。市民も、改修されるっていう事は、もう本当にワクワクしながら待ち望んでいると思うのです。本当に長年ずっと耐え忍んできたからこそ。失望だけはちょっと。だから、どんな材質でどんな風になるのだろうかっていう事は、心配なのですが。

(細田座長)

材質等については、どの程度まで想定されているのでしょうか？

(角次長)

材質については、まだです。

(田中委員)

デッキの代替案として、真ん中に通すのではなくて、建物の壁面に沿って1mぐらい回廊みたいにしていけば、1.5倍くらいにはなりますけども、雨もよけながら、図書館と美術館を行き来する機能は果たせるとは思います。

(細田座長)

吹きさらしだと雨の日は殆ど役に立ちませんからね。片方が壁になっていけば、かなり役に立ちますけど。高専についているデッキも殆ど意味がないのです。

(中川委員)

本来は雪の日こそ、雨の日こそ必要なのに、逆に雪や雨の日に使えないようなものだったら、意味が無いのです。

(渡邊委員)

私たちは基本的に市民の立場から使いやすい図書館・美術館、外も含めて、今見ていると思うのですけれど、是非とも中で働いていらっしゃる職員の皆さんの意見を最重視してあげてください。中で働いている方達が、フットワークが良くて使い勝手のいい建物になら

ないとまったく意味が無い、機能されないと思います。合わせて、今後のことですが、図書館・美術館がどのくらいの期間、閉館になって、一般市民の皆さんにどういう迷惑を掛けていかざるを得なくなるか、更に代替として、例えばちっちゃな会とかは、こちらのお部屋を使ってくださいとか、今使っているこういう案もありますとか、そういう返事までしていただけるとちょっと安心します。学校への案内とかそういう所も見えてくるといいと思います。

(細田座長)

今、職員の方達には、図面で意見を何か聴取されていますでしょうか？。是非、中の意見を大切にされて。職員の方が毎日使われる事ですから。

(政木館長)

そうですね、図書館も美術館も両職員と一緒にアイデアを練っておりますので、その辺は十分ですし、また帰ってから今日のご意見を協議したいと思います。

(細田座長)

色々、代替のアイデアだとか閉鎖時の対応といった事も、是非まとめて、早めにホームページ等に載せるとかして戴ければと思います

今回は、図面もあったおかげで非常に建設的な話し合いができたのではないかと考えております。まだパブリックコメントもありますけれども、是非委員のアイデア等も踏まえて良い図書館・美術館にしていきたいと思います。パブリックコメント等が終わりましたら、また懇談会があるという風に聞いておりますけれども、今後の予定は？

(永見課長)

次回の予定ですが、当初予定しておりましたパブリックコメント、タウンミーティングが若干ずれ込んでおります。パブリックコメントを6月30日までの予定にしております。この段階で各種意見を集約し、市の意見というものを整理させていただいたうえでの懇談会になろうかと思っております。7月中くらいを現在予定している所でございます。

次回の懇談会につきましては、パブリックコメントの意見ですとか、タウンミーティングで出た意見、あるいは今日、委員の皆様からの意見等々をどういう風に反映していくのかという事をお示し出来るようにしたいと考えております。

それと、先ほど渡邊委員から言われましたように、休館中の従来のそれぞれの業務をどう考えていくのかという事も、どこまで示せるか判りませんが、整理させていただきたいと考えております。